



野庭すずかけ小だより

7月号

横浜市立野庭すずかけ小学校
2018(平成 30)年 6月 28日
TEL 842-3105

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/nobasuzukake/>

便利な道具とのつきあい方

校長

本校の田んぼには今、青々とした苗が植わっています。これは先日、5年生が総合的な学習の一環として植えたものです。小さい田んぼに子どもたちが「落ちる落ちる、押さないで。」「植えるのはここがいいかなあ。」などと楽しそうに苗を手で植えました。



この田植えをお手伝いいただいた学援隊の方にお話を聞いたところ、ご自身が若いころは田植えの時期になると小学校は「田植え休み」となり、親族や近所の農家総出で田植えをしたそうです。目安となる目印をつけた縄を田んぼの両端から引っ張り、目印に合わせて一斉に苗を植えていきます。苗を植えるペースが遅いと「おおいっ。もっと速く植えなさい。」と叱られたそうです。現在は長方形に区画された田に機械を使って正確に苗を植えていきます。人手も少なくそして短時間で田植えをすることができます。田植え機という「便利な道具」が発明されたおかげです。長い時間田植えをすることがなくなり、体の負担が少なくなるという「良いこと」につながりました。

「便利な道具」と言えば、パソコンはその代表です。このパソコンのワードプロセッサや表計算ソフトの発達により私たちの生活は大変便利になりました。「あゆみ」も現在パソコンで書いています。手書きのような「味」はなくなりましたが、推敲して保護者の方により伝わる文に変更しようとしたときに、何度も砂消しゴムで消して、書き直すことはなくなりました。また、表計算ソフトを使用することで、見やすく正確に伝えることができるようになりました。

一方、そのパソコンやゲーム機の発達により生まれた「病気」があることが先日、新聞で伝えられました。それは、「ゲーム障害」という病気で、WHO（世界保健機関）に正式に疾病として認められました。その症状は「ゲームをしたい欲求を抑えられない。」「ゲームをすることが何よりも優先する。」などだそうです。「便利な道具」だったはずのパソコンやゲーム機が、使う人によっては「健康をこわす道具」になってしまうのです。

学力学習状況調査と同時に行われた生活意識調査の結果では、「1日のパソコン（タブレットを含む）・携帯電話・ゲーム機の使用時間」について、「3時間以上する」と回答した本校の全児童の割合が22%で、これは横浜市の結果を13ポイントも上回っています。ゲームだけでなく「ライン」などのコミュニケーションツールや動画視聴・作成ソフトを使用することも、使用時間の増加につながっています。体や心に影響がないかが心配です。もう一度、各ご家庭で、ゲームや動画ソフトの使用についての約束を確認してください。神奈川県警が作成したプリントを配布いたしますのでご参考になればと思います。

現在「苗を植えずに水田に種を直接まく方法」の研究が進んでいるそうです。田植え機という便利な道具を使わず、苗を育てる作業と苗を田に植える作業を省き、負担を減らそうとしているのです。同じようにゲーム機がなくても、鬼ごっこやキャッチボール、ランプ、ウノ、読書、お絵描きなど子どもたちは遊びを知っています。ゲームやパソコン、テレビから離れる時間をご家庭で少し作っていただくと、生活を見直すきっかけになると思います。よろしく願いいたします。

